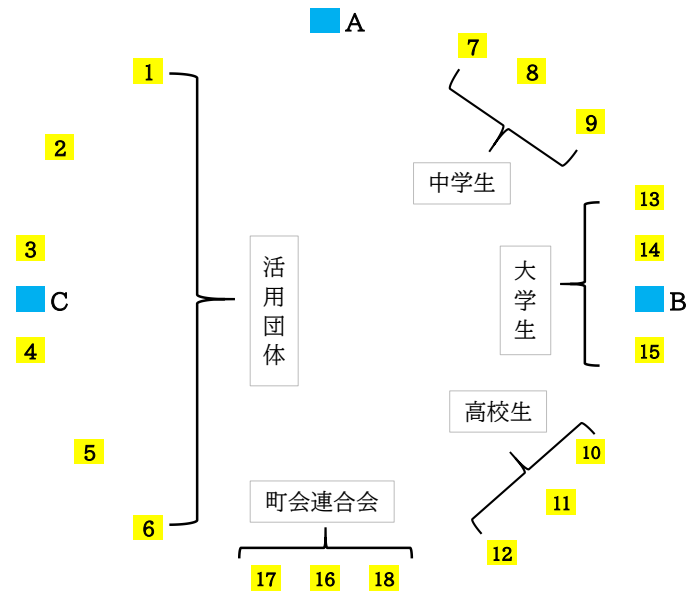


## 市長と住民のこんだん会

～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～（報告レポート）

- 1 開催日時：令和4年6月28日(火) 午後5時～7時10分
- 2 開催会場：庄内地区公民館 大会議室
- 3 開催テーマ：「今をみつめ、未来をえがき、実現にむかう、熱き想いを伝えよう」  
～庄内地区でのまちづくりの活動を踏まえ、その成果や見えてきた課題、将来への展望、その実現に向けた思いなどを市長に伝えよう～
- 4 開催内容：地域自治支援交付金活団体、開成中学校、松本工業高校、松本大学、庄内地区町会連合会から、日頃の活動や体験を通じた意見発表
- 5 参加者：31名(上記団体:18名傍聴席13名) うち発言者19名

発言者が市長と正面となるように市長がA→B→C→Aと移動



### 1 市長あいさつ(A)



## 2 こんだん会スタート

最初は地域自治支援金活用団体の方です。(市長Bの席に移動)

座席	氏名	団体	備考
1	伊藤 由紀子	集いの場ふらっと	居場所 相談 【地区外からの支援】
2	茂住 光延	庄内福祉のちから	ボランティア 【サロン・移動支援】
3	西口 恵利子	かえでの会	読み聞かせ 【子育て・子ども会育成会】
4	青木 みき	香りの会	地域活動団体 【新たな活動の試み】
5	大嶋 健資	庄内盛々会	地元有志団体 【地域の一体感醸成】
6	山本 哲也	並柳青年会長	

### 【集いの場ふらっと】

<NPO 法人ワーカーズコープ 伊藤由紀子さん>

NPO 法人ワーカーズコープとして地域に在住していないが、10年前から並柳団地支援をしている。子ども達の居場所なみカフェ、高齢者までの居場所を展開しています。

最初、住民の皆さんが主体的で背中を押すことからスタートしたが、現在は自分達が運営の主体となっています。

1つの空間に子どもから高齢者がいるのは、非常に効果的であるし、1人で立ち寄れる居場所は、これからの地域に絶対必要だと感じています。

一昨年、サポーター養成講座を開催しました。支え合いをする上で住民の人達の理解は重要だと思います。庄内地区のボランティア部隊の人たちと共に地域づくりを目指していきたいと考えています



### 【臥雲市長】

なみカフェには足を運ばせていただいた事があります。その後、子どもからさらに様々な方々に活動が広がっているというお話でした。

運営主体っていうのは必ずしも住民でない方がいい、一方で今度は住民でない人たちがどこまで住民の皆さんにしっかり理解をして共感を持っていただけるか、と矛盾することの二つを両立しなきゃいけないということなんですね。

支え合う意志があるという人に出会うこと。本当にどなたであっても差別なく受け入れる気持ちがあって、誰でも来れるよい場所、話し相手になるよっていう人がまずいるという事。そして場所もちょうどあるということで、安心して継続的に運営できる。

そこにいる人が無償ボランティアなのか、有償ボランティアなのかは、常にその議題に上がる事ですが、多少なりと有償の方が生き甲斐に繋がるような気がします。

本当難しい視点ではあるのですが、いろんな条件が整っていれば、他でもできるのかなと思います。

【庄内福祉のちから 茂住 光延さん】

ちょうど退職してから高齢者支援を始めました。

今自分の車を使って高齢者の病院送迎ですとか、買い物支援等をやっています。それと両親がやってた雑貨屋を開放してサロンをやっています。

課題として感じていることは、

- ・後継者というのは継続してやっていく人がいない。
- ・高齢者支援という幅が明確ではない。
- ・必要性があるかどうかということ。

専門分野の方々の考え方、違う形での高齢者施設の方のネットワーク、住民のネットワーク、いろんなものを掛け合わせながらやって行かないといけないと思うが、それを引っ張っていくリーダーがいないのが、今非常にちょっと寂しく思います。

住民による住民福祉の位置づけっていうのをもう少し考えていくべきじゃないかなと思っています。



【臥雲市長】

それぞれの地域の中で、車を運転できず、病院や買い物に行けないという方々に対しての足をどのように地区ごとに、あるいは地域ごとに作っていけるのかということ、松本の非常に大きく、しかも優先度の高い課題であり、どうやって広げていかも非常に重い課題だと認識しています。

その全体をリードしていく役割を担ってほしいのが、地域作りセンター長です。ただ、地域づくりセンターにそれだけの体制を取れているか、言うともだまだ十分ではありません。様々な課題をしっかりと把握をしながら、住民の皆さんの活動を当初から統括して全体をリードすることをセンター長に担ってもらえるように、近づけていくかというのが一つ課題だと思っています

【かえでの会 西口 恵利子さん】

かえでの会は18年ぐらい、ECメープルも10年以上、やはり継続することがすごく大事だと感じています。

朝の時間に読み聞かせと入っていると、子どもが落ち着いて授業に入ると学校の先生からお聞きしています。

ECメープルは松本市の小学校では珍しいと思うんですが、英語を一時間枠の授業として低学年にボランティアで入って、ちゃんと授業をやっています。

みんな、ボランティアでやっているのだから、支援金をいただき普段自分たちでは買えない大型絵本やワイヤレスマイクを整備して活動を広げています。

育成会では、盛々会や地域の青年会の協力を得て、





こどもまつり等をやっています。子どもたちも地域の大人たちが自分たちの為に、いろいろ協力して一緒にやっているんだという繋がりを感じてくれて、将来小学校の時にあんな楽しい事が庄内地区であったんだなど、思い返してくれればいいなと思っています。

#### 【臥雲市長】

読み聞かせそして英語教室はそれぞれ何人ぐらいの方が関わっているんでしょうか。

これから学校に行く回数を増やしたいとか、希望展望というのはあるのでしょうか  
(西口さん)

かえでの会は15人ほどで実際に活動できるのは10人位です。5年生までは、毎月全クラスに入っています。低学年を中心入ることになります。保育園も年に6回ほど入っています。子が小学校に上がった時にやっぱり覚えてくれて「かえでのおばちゃんだ」って声を掛けてくれます。

ECメープル今は2人ですが活動的にやっております、今まで学校からいろいろな文具の協力をいただいています、いろいろな資料を作ったり、絵本なんかも自分で買ったりしていたので、支援金で充実した物を揃えたいと思っています。

#### 【臥雲市長】

学校との連絡調整みたいなものは、難しいと感じることがありませんか？

(西口さん)

かえでの会は、学校からFaxをいただき、月に一度定例会を開いて調整をします。

#### 【香りの会 青木みきさん】

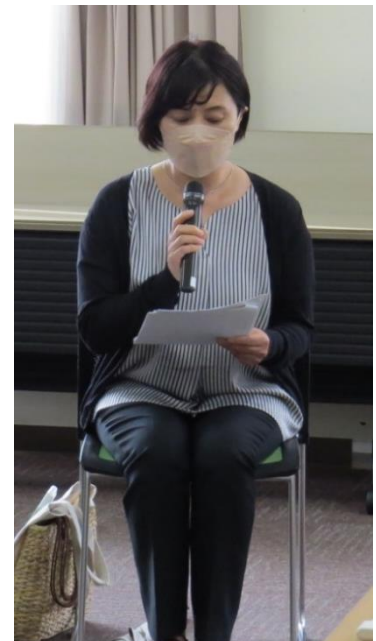
アロマセラピストハンドセラピストの資格を持つ8名で活動しています。

回覧板で支援金事業の募集を見て、コロナ禍ですけれども、何か私達にできることはないかと地域づくりセンターに相談したことから、スタートした事業です。

今年の活動の一環として、庄内にありますデイサービスセンターへハンドトリートメントのボランティアに伺う機会が出来て、今後定期的に伺える事になりました。

施設の担当者からお年寄り、ふれあい、繋がりなどが大切で、このような機会はコロナ禍だからこそ必要、と感想をいただきました。

今後地域の皆さまも私達会員も少しちょっとほっこりして、ちょっと肩の力が抜けてちょっとニコっとできるような機会になるように検討しながら進めていきたいと思っています。



【臥雲市長】

ハンドトリートメントとコロナのこの2年は、握手もしないようにしようとか、触れ合いが制限された期間がずっと続いたと思いますが、そういう中でも、施設に行かれたり、あるいは勉強会を開催されたりと地道に続けられて、手応えを感じておられる。

母親が施設にお世話になっており、もしそういう機会があれば、癒しが大勢の方々が感じていただけるかな、と思ってお話を伺っておりました。

今後、それを広げていくにあたって、どのような課題があるとかお考えでしょうか。

(青木さん)

資格を持った者8人でやっていますが、それぞれ仕事をもったり、家庭をもったり、出来る範囲でのボランティア活動になっています。一度に大勢のスタッフが出来るわけではないというところが、今後も課題になっていくと思います。

【庄内盛々会 大嶋 健資さん】



庄内盛々会は、結成から15年、会員はその頃20名から30名、60代が多いですね。

基本的には、月一回、飲み会をして、でいろんな話の中で、今度はこんなことしようと企画が出ます。

まずは、自分たちが楽しくやらないと、人はついて来てくれないと思います。それを見た子ども達が、楽しい人がいるなどか、大きくなって地域に戻ってきても楽しいかな、と思ってくれればと活動をしてきたつもりです。

今年も支援金を活用して、弘法山の伐採される桜の木を活用して巣箱作りを計画しています。あ

と砂鉄を使った、「たたら製鐵」も企画しており、小学校、中学校、そしてぜひ松本工業高校の方々にも参加していただければ、いろんな人を巻き込めるチャンスだと思います。

【並柳青年会 山本 哲也さん】

青年会の成り立ちが地域の文化を継承したり、次へ繋げていくことから始まっていて、お神輿だったり、三九郎、青山様など地区のPTAと一緒にお手伝いしています。

昔から居る人より、市外だったり、県外だったりする方が増えてきて、なぜそういう行事をしているのか、どうしてやらなきゃいけないのか、が浸透していなかったり、皆さん年齢的にも忙しいことがあったりしまして、仲間がなかなか増えない所が問題ではあります。



## 【臥雲市長】

キーワードは、「楽しい」ということを、どうやって皆に共感してもらえるか、ということなどで様々な取り組みをされてきたと、伺いました。

現役世代で働いてる人たちに関わってもらえれば、活力も元気も活動の力強いものなるということなんだと、思いながらお話を聞きました。

三九郎や青山様など行事の意義というものが伝わってないがゆえに、という課題は、地区単位でというよりも、松本市の全体としての伝統行事の成り立ちを掘り起こして、伝えていくということが、実はそれぞれの地域のいろいろな活動にとってプラスになることがあるなと思います。

子どもたちが楽しんでくれて、それを保護者の皆さんが楽しんで、自分も関わろうというサイクルは、いろんな地区でできていけばということだと思います。今回の小鳥の巣箱作りは、若い人にとって漫画や映画で知っているあの弘法古墳弘法山の桜、そこにこの取り組みというのはかなり幅広い層の参加を繋げる大きな企画になると思います。





次に地元の学生の皆さんです。(市長Cの席に移動)

番号	氏名	団体	備考
7	加藤 優菜	開成中学校	3年生 生徒会役員
8	関森 優菜	//	3年生 生徒会役員
9	花村 結貴	//	3年生 生徒会役員
10	宮坂 南希	松本工業高校	3年生 電気科・原動機部
11	勝部 尚生	//	3年生 機械科・原動機部
12	望月 琉成	//	3年生 機械科・原動機部
13	北村 凜果	松本大学	なみカフェ支援 4年生
14	窪田 英治	//	なみカフェ支援 4年生
15	中島 麻衣	//	地域づくり考房「ゆめ」

【開成中学校の皆さん】



(1) 学校の設備について

柔剣道場では剣道部と卓球が活動していて、南側にあつて風通しが悪く、練習風機を回す練習に支障をきたしてしまいます。剣道部も防具を着ていて熱中症の心配があります。柔剣道場にエアコンの設置をお願いしたいです。

(2) 道路について

ファミリーマート近くの交差点を斜め横断する生徒がいて危険ないので、スクランブル交差点にして欲しいです。

(3) 松本走りについて

長野県では歩行者を優先して止まってくれるということで有名だと思いますが、松本走りと呼ばれる危険な運転があります。私達が大人になった時に安心して運転するためにも何か取り組みを行うべきだと思います。

#### (4) ボランティアについて

松本市を綺麗にして観光客の方々に気持ちよく観光していただくために、市民の人たちにボランティア活動を行う機会を設けていただきたいです。

学校や地域を通してボランティア活動の宣伝をすることで、幅広い年齢層の方たちが集まり、交流が深まり活発な活動になって行くと思います

#### 【臥雲市長】

##### (1) 学校の設備について

松本市は、昨年までに教室へのエアコン設置を完了しました。体育館は、大きな建物でエアコンの設置は、さらに費用の面とかも考えないといけない。

これからは、児童や生徒以外の地域の人たちや、世代が越えた人たちが使う施設にしていかなければいけない、と思っています。

災害時の避難所となりますので、その必要な設備であれば、エアコンを設置する必要があると思います。今後、教育委員会、現場の先生方ともお話をしていきたいなと思いました。

##### (2) 道路について

交通量と歩行者の数などから、スクランブル交差点にした方がより効率がいいか、安全か、といった観点で交差点のあり方は、決まってきました。設置を決める権限は、長野県警察本部が持っています。

登下校時の限られた時間帯以外はあまり歩行者が少ない交差点だと思います。朝と下校時みたいな時間帯だけできるのであれば一つ有効かなと思いますし、全時間帯をやるのが効果的かも考えるポイントになるのかなと思います。

##### (3) 松本走りについて

城下町という歴史から 2 車線道路が多く、右折レーンが設けられてない、右折できない車の後は渋滞します。無理してでも右折をしようとする中で、「松本走り」と言われるような状況があります。

右折レーンを増やしていくということがまず一番効果的な方策。渋滞のポイントがどこにあるかを調べて進めています。短時間で作るということにならないのも現実です。

どのような運転マナーを松本においてもしてもらわなきゃいけないかという事を、松本に住んでいる人たちだけでなく、外から来る人たちに対しても、松本の街を安全に走ってもらうための情報を伝えていかなきゃいけないなと思いました。

##### (4) ボランティアについて

街中の掃除を市民の皆さんが既にやっていて、綺麗な街だなと評価をいただいたり、松本城の通訳ボランティアさんが活動したり、他の町に比べて進んでいると思います。

その上で、もっと広げていく、特に中学生をはじめとした若い人たちが参加しやすくなる、学校の校長先生や教育委員会の人たちとも、こういう風にアプローチすると機会が設けられるとか、今日の話をつまえて話をしていきたいなと思います。



## 【松本工業高校の皆さん】



### (1) 道路環境について

松本駅から高校に通うときに危ないなと思う所、一つは深志2丁目のスクランブル交差点ですが、車の待ち時間が長く、右折レーンの人が急いでいて歩行者とぶつかりそうになり危ないと思います。

もう一つは、あがたの森のT字路です。北に行くとき途中から道が狭くなっていて、危ないと思います。近いうちに改善されたなあと思いました。

### (2) 薄川のランニングコースの整備について

薄川沿いランニングコースを北側にもランニングコースを造って欲しい。夜間ランニングのため、コースの補修工事や街灯や足元が見やすいライトの設置をお願いします。

### (3) 小中学生の視力低下をについて

危機感をいただいています。インターネットの普及が原因かと自分は思っています。各学校にスマートフォンに取り付けられるブルーライトカットカードを配布したらどうか。

## 【臥雲市長】

(1) 深志2丁目のスクランブル交差点。車がギリギリ曲がるという状況もあります。あと自転車でスクランブル交差点を渡っているのは歩行者扱いで、本来であれば、自転車を置いて押して渡らなければいけないルールが徹底されていないです。

いろんな問題が凝縮して見えていますから、松本市としてこの交通安全の問題を考えていくときのポイントに置きたいなと思いました。

あがたの森のT字路北へ行くと狭くなるというのは、見にくい状況になっていて、危ない状況で、今そんな長い区間にはならないですけども、清水の方に向かって少し角といいますか、見にくいところを広げようという工事の計画が始まり、少し改善されることとなります。

来年4月から、自転車に乗る人は全ての世代がヘルメットをかぶることが努力義務に法律で決まります。4月に向けて集中的にキャンペーンをしていかないといけないなどと思っています。交通安全の問題をこなしつつ、自転車のヘルメットの着用義務化に合わせて今日いただいた話などをしっかりまとめて、今年度の後半は、ぜひしっかり皆さんに課題を伝え、より安全で安心して交通環境が整うよう前に進めたいと思います。

- (2) 薄川のランニングコース。今日朝、私も走ってきまして、実は時々週に3回は短いですけど、走っています。

金華橋から東側に行くと、もう歩道もない状況なので5キロとかをしっかりと走ろうとすると、車道を走るということになる。ここを走る人がすごく増えてくると、走りやすい状況を作ろうじゃないかという人たちの声が大きくなって、いろんな課題もあるけれども、ランニングコースを安全での状況に思考の話になると思うんですが、若干もう少し走る人が増えないと、ちょっと難しいかなと思いました。

でも、ひび割れのような問題はランニングだけじゃなくてなかなか目が行き届かなくて深刻な状況になっているところありますので、そうしたことを伝えてもらえるような市としての窓口みたいなものを作って、補修や舗装しなきゃいけないっていうところはしっかり対応していきたいなと思います。

- (3) ブルーライトの影響というのは、ずいぶんいろいろなところで指摘をされています。

一方でスマホを離せない、辞書とかの役割も果たしますし、最大の連絡手段としても使えますので、なかなかその時間を使う制限をするということも難しい状況になっているとは思っています。深刻な状況にあるという指摘をする専門家の方もいますので、どういうことを行政としてやるべきなのか、今日のお話聞いてまたしっかり考えていきたいと思っています。

#### 【松本大学の皆さん】



### (1) なみカフェについて

松本大学ではなみカフェ支援という形で地域の中で活動させていただいています。参加する前は「子ども食堂」という言葉を聞いた際に、貧しい子どもたちが集まるような暗いマイナスなイメージで、勉強不足というものを痛感しました。実際に活動に参加してみて、最初に私が持ったイメージというものが偏見だったということに気づくことができました。

こうした一面、なみカフェがある並柳団地町会は、様々な困難を抱える人がいるということも現実であり、だからこそなみカフェという子どもたちや地域の居場所というものが必要であり、大切にしていかななくてはならないと考えています。

なみカフェについてもっと理解してもらうために、地域の方や行政の方たちにも積極的になみカフェを訪れるよう事業を展開することが必要だと思っております。

### (2) 活動と課題

子どもたちと思い切り遊ぶことはもちろんですが、学校の宿題や勉強したり、一緒に食事をしたり、最近ですと松本の伝統文化でもあります七夕人形を作りました。

また、子どもたち同士だけでなく、私達のような大学生や地域の大人など、様々な人と交流をしています。小学生から高校生の子子どもたちが、同じ場所で同じ時間に食事や遊びをする事で、学年や学校の枠を越えて交流ができる場になっていると感じています。

課題と感じている事は来ている子どもが想像よりも少なく、もしかしたら本当に来るべき支援が必要な子どもが実は来ていないのではないかというふうにも考えています。もしかしたら、知らないのか、来ることに抵抗があるのか、いろいろあると思いますので、もっと幅広い子どもたちに来れるように工夫が必要だと感じています。

### (3) 大学生ならではの視点

大学生ならではの視点で子どもと関われるっていうことの意義があるのかなと思っています。

実際に活動しているのを見ていると、年齢の近いお姉さんお兄さんのような立場の学生だからこそ、子どもたちが本音を話したり、思いっきり遊ぶ中で信頼関係が築かれている様子などが見受けられていたので、今後も大学生だからこそできる関わり方ですとか、視点を大事にしながら関わっていきながら、地域の方々や公民館、などと一緒になみカフェを作り上げていけたらいいなと思っています。

### 【臥雲市長】

ワーカーズコープの皆さんがスタートしてから松本でも先駆けて的々なみ子ども食堂の取り組みが、先ほど 10 年というお話ありましたがそれを松本大学皆さんが支えていただいているお話でした。

子ども食堂ということに対するマイナスのイメージっていうことがありましたけども、マイナスというか要は本当にこの食事を家庭が貧しいが故にどうしても提供を本当にしなければいけない人たちというのは、現実には一定程度存在をします。

さらに食事の提供ということスタートに始まった活動を、もっと広く居場所としての役割そして子どもたちの宿題勉強のサポートする役割という事になみカフェ自体幅が広がっているのかもしれない。

松本市としては、今年から学都寺子屋事業ということで、食事の提供までは必要ないけれども、学校の宿題とか勉強のサポートはしてもらいたいという、そういう要望にも応えていけるような形も行っていきます。その時に、それを支えてくれる方々を、さらに広げていけるかどうかということがやはり課題になってくると思っています。

そうした活動の中心となっていただく団体の数という面でもそうですし、またその団体に何らかの形で関わる学都寺子屋事業できますと勉強のサポートしようと思うっていうもらえる人たちの数を、先生のOBの方々だったり、あるいは皆さんのような大学生のような人たちだったり、そんな人たちにできるだけたくさん登録していただけるような、プラットフォームをしっかり作っていきたいと思っています。

現状、参加する子どもたちが少ないということに対しても受け皿の数を増やしていく、あるいは子どもたちやご家庭が求めるニーズに近い形でいろいろなものを提供していきける状況になっていくことが、本当は参加したいけど参加できてないとか、自分たちが求めている内容と違うと思って、参加までに至っていない人たちを増やしていく、幅を広げていくことにつながっていくと思います。

大学生ならではの視点、それは年の離れた僕らのような世代よりも子どもたちにより親近感を持ってもらい、サポートするには、より皆さんのような世代の人たちのお力が有効だと思います。

皆さん方にも参加してもらいやすいような状況を、大勢の方に参加してもらえるような状況を私達が作って行かなければならないと思います。

最後に庄内地区町会連合会さんです。(市長Aの席に移動)

【庄内地区町会連合会】

16	百瀬 康一	庄内地区町会連合会	会長	出川町町会
17	小松 恵三	〃	副会長	庄内町町会
18	大内 正紀	〃	副会長	筑摩町会





庄内地区は、古い町並みが残っている新橋平田線沿い、それと神田町会、筑摩町会が古い町並みがまだ残っています。それ以外は、区画整理の為、新しい家が増えています。

私のいる出川町会では、戸数は減っていませんが、増えているのは市営住宅、マンション、アパートで、400戸のうちの260戸が、マンション、市営住宅、アパートで占められています。町会活動に対する人の支援というのが全く見込めず、古くからある120戸ぐらい全ての役員をやらなきゃいけないという問題点もあります。

もう一つ新家町という町会があるんですが、そこは戸数が増えて84戸ですが、マンションが25戸も増え、やはり人が回らない。毎年、役員を10何名かで直さなければいけない、とてもじゃないがやっていけないというような現状があります。

お願いですが、Uターンに力を入れていただけないでしょうか。現在の出川町でも、お年寄り2人暮らししているところは、お子さんがないわけではなく、都会に行ってそのまま就職され帰ってきてくれないっていうのが現状みたいです。

防災についてです。庄内地区は、7.8年前から防災運動会だとか、防災訓練で避難所運営の実習をしています。出川町会の避難所は松南地区にあり、これから避難所運営委員会を発足しますと言われびっくりしました。

庄内地区では避難訓練を町民参加して、各小中学校よくやりました。今年、最後の避難所である松本工業さんとの合同訓練を実施する予定になっております。それにより、町民1人1人がどういう避難の仕方をするか、少しでも頭に入ってくればありがたいと思っています。

また、松南地区の防災備品は、市から配られたものしか置いてないですが、庄内地区では、地区の予算で避難に使う備品を毎年購入しています。

各地区での不公平が出ていますので、市全体で取り組みを大きくしていただきますよう、よろしく願いいたします。

## 【臥雲市長】

資金面というよりも人的な活動への参加を、新しくこの町に来人の方にもシェアをしてもらえる状況を作るということは、松本市全体に関わってくる課題だと認識をしております。

その参加を一定程度強制したらどうだ、あるいは町会の加入そのものにもっと強制的な関わりを市は示すべきではないかという意見を頂戴します。一方であくまでの任意の自由意思に基づくものでなければならないという原則は変えることはできないだろう、変えてはいけないというご意見をございます。

そのあたり非常に答えが出ない部分でございますけれども、大きな課題として認識をしてみたいと思っております。

Uターンに力を入れてほしいと。これは高度経済成長時代以降、日本にとっては東京集中という流れを、その度ごとに田中角栄は国土の均衡ある発展ということで、新幹線や高速道路を作ることでバランスのとれた東京と地方の関係を作ろうとしましたが、うまくいかなかった。

また2000年に入って地方の時代においてもやはり東京行き集中を止まらなかった。

私も今、Uターンも含めた人口の定常化ということを松本も大きな目標と考えております。そのときに何が今の若い人にとって行動の変化を起こせるのか、やはり第一にくるのは魅力的なそして安定的な仕事であり雇用であり収入、そういうことが土台としてあるんだということは間違いないと思います。

さらに、結婚して家庭を持つ、あるいは既に持っているという形の中に、子どもの学校教育という観点で少なくとも今、自分たちが向き合った東京の教育に比べて松本はどうかという感覚で、Uターンの動きが大きなものにならないという側面もございます。

そしてもう一つ、先ほどの町会の問題と、実は繋がってくるんですが、大都会で暮らすことのいわばこの自由な束縛の少ない、そういうものに惹かれている人たちから見ると、地方都市に来て暮らすことは、一定程度窮屈でそしてその束縛と向き合うことの生活になる、その選択をどちらかということですときに、まだまだ必ずしも地方の暮らしを選ぶ若者たちの数を大きく増やすということに至っていないという現実があると思います。

ですので、魅力的な仕事、子どもの教育、さらには自由で開放的な暮らしの中、総合的に進めていって、ここで生まれ育って、大学やあるいは就職しても子どもを産み育てようと思った時、家庭を持って暮らしていこうと思った時には、ここ松本でという選択をしていただけることを増やしていくための取り組みは、しっかり力を入れていかないといけない課題だと思います。

防災について、備品の購入等で町会ごとに負担のばらつきがあるということは、非常に不公平でもあるし、また一番大切な命と財産を守るという行政の役割からして、全て既にもうできてるというような感覚に立つことなく、見直すところは見直してまいりたいと思っております。

傍聴席の方からの発言です。

【並柳長会青年会副会長】



三九郎、青山様の行事についてです。子どもたちが最近あまりやる気がないということで、いろいろ聞いてみましたところ、まず親がやる気がない。そして親たちはこのコロナ禍に乗じまして、中止の傾向になっています。行事というのは、2年やらないと改変してしまう3年やらないとなくなってしまうということでとても危機感を感じています。

最近危機感を感じていまして、30年前私が青山さんやっていた頃は、集めたお金で花火をして、とても楽しかったです。今はコンプライアンス問題でそれはできないということで、全額寄付や子ども達の活動にあてているということです。子どもから楽しいのはどんどん奪ってしまっているということで、まず大人が楽しんで、子どもたちに楽しさを教えるような地域作りをしていきたいなと思っております。

学校教育の現場でも意味合いから含めて、楽しさというのも含めていただきたいなど。特に新しい方がどんどん増えておりますので、全く知らない方も多いです。意味合いも含めて、なぜやるのかっていうのは、楽しいからやるというのをぜひ協力していただきたいと思っております。

#### 【臥雲市長】

おっしゃっていた、アイスを楽しみにして参加したという、私も全く一緒でございます。私が生まれ育ったのは、松本駅前の新伊勢町という町会でありまして、今はもう子どもが1人もいないという街になってしまいましたが、当時私の実家の1階にちょっとしたスペースがあったものですから、そこに青山様の御神輿の置き場所になって、そこからエリアにいくという話でありました。

その当時と全く同じことを同じように楽しいと今の世代の親御さんたちが本当に思えるかと、そういうことは直ちにやはり難しい面もあるんだろうなと思いますので、そのあたりをどういうアプローチをしていったら、子どもにも保護者にも楽しい、感覚を持ってもらえるかっていうことを考えなきゃいけないなと思います。

伝統行事だからどうだということではない、また、もう一つ楽しいということは今の子どもたち、今の親御さんの世代にとって楽しいと、こういうことには、何が繋がっているのかということを考える必要があるという事例だなと思って見ております。

#### 【全体を通して臥雲市長から】

この庄内地区という地区が、非常にたくさんの多様な課題を抱えているのと、それと同じぐらいにその課題を解決して、少しでも改善をして取り組んでいこうという人たちの和が、ベースがすごくある地区であるということも改めて感じさせていただきました。

ぜひ、地域づくりセンター、あるいは町会の皆さん、様々な取り組みをされている団体の皆さん、そして中学生、高校生、大学生の皆さんにも、この町内に住んでいる方も住んで居ない方も、自分たちが何らかの形で関わることで自分たちが楽しく、そして周りの方の役に至っているということで、それをまた続けて行こうといただけるような人に進んでいければというふうに思いました。

引き続き他の地区にも足を運ぶ事になりますが、今日いただいた話はまたどこか別のところでもお伝えながら松本市全体のことを考えていきたいと思っております。

本日は、どうもありがとうございました。